

会議等名	平成 29 年度 第 1 回海老名市子ども・子育て会議
日 時	平成 29 年 5 月 30 日（火） 10：00～12：00
場 所	海老名市役所 3 階 政策審議室
出席者	委 員：鍛冶 邦彦 委員長、鷺野 昭久 副委員長、久保 由美 委員、鍵渡 香代子 委員、小島 良之 委員、木村 伸之 委員、吉川 昌宏 委員、増田 芳夫 委員、亀澤 ますみ 委員、田島 紀子 委員、渡部 理子 委員、村田 愛 委員（欠席；櫻井 慶一郎 委員、山田 由美子 委員、熊澤 紀千代 委員） 事務局：保健福祉部次長（福祉担当）兼福祉事務所長 小澤 孝夫、参事兼子育て支援課長 告原 幸治、医療・手当係主査 尾内 速斗、主事 林 健太、主事 古谷 梢、主幹兼保育・幼稚園係長 安齊 浩史、保育・幼稚園係 主事 片山 考人 傍聴者：0 名
1 開 会 2 事務局紹介 3 議 題 【審議事項】子ども・子育て支援事業計画の平成 28 年度実績報告について 平成 27 年 3 月に策定した「海老名市子ども・子育て支援事業計画」の中にある 6 つの基本目標ごとに、計 14 ある基本施策に対する平成 28 年度の実績報告をまとめたため、その内容について審議事項とした。 （1）基本目標 1 「新たなえびなの子育て施策」について ① 審議内容 3 つある施策の説明、実施状況、次年度に向けた改善点等を別紙資料に基づき事務局から説明した。 ② 質疑応答 ・ インフルエンザにかかった児童も「病児保育」を利用できるのか。（委員） → 利用できる。病院内の専用スペースで利用できるよう、医師会などと調整を図っている。送迎については保護者が行う。（事務局） ・ 「病後児保育」の利用者数が少ないのは、利用時間が原因なのか。（委員） → 病後児保育の利用可能時間（8：30～17：00）に対し、保育園の開園時間（7：00～19：00）が一致していないため、保護者が利用しにくい状況になっていると考えている。利用時間を拡大し、保護者が利用しやすい環境を	

作るように改善していく。(事務局)

- ・ 「HUGHUG えびな」は多くの方へ認知されているのか。(委員)
 - 現状で、登録数 700、閲覧数 3,000 である。登録数を増やす取り組みとしては、市内の保育園・幼稚園やその他の関連施設へ配布している「えびな子育てハンドブック」へ掲載することや、各種イベント参加者へチラシを配布することを考えている。(事務局)
 - 広報えびなで毎月掲載されている「HUGHUG 赤ちゃん」のページに、サイトのことも掲載したり、「すくすく広場」にきた保護者に登録してもらうことなどを検討してみてはいかがか。(委員)
 - 対応できるか担当部署へ伝える。その他の取り組みとして、市から発送される一部の封筒に QR コードを表示させている。(事務局)
 - 月ごとの登録数をカウントし、効率が良い取り組みの洗い出しをしてみてもいかがか。安全・安心フェスティバルのブースで登録案内をし、実際に登録された保護者も多かった記憶がある。(委員)
 - 登録者を効率よく増やす取り組みを考えていきたい。(事務局)

③ 審議結果

実績報告の内容について、了承を得られた。

(2) 基本目標 2 「幼児の教育・保育の課題解消に向けた取組の推進」について

① 審議内容

2 つある施策の説明、実施状況、次年度に向けた改善点等を別紙資料に基づき事務局から説明した。

② 質疑応答

- ・ 説明の中で人口減少と言われているが、西口開発によるマンション等の増築の影響も考えたうえで、減少傾向と考えているのか。(委員)
 - 公共施設白書の人口推計では、西口開発による人口増加 3,000 人、駅間開発による人口増加 1,000 人を見込んでいて、海老名市の人口ピークは平成 35 年を予想している。マンション開発による児童数の増加は不透明であるが、現時点の実数としては微減している状況である。さらに、駅前以外の地域では、児童の数は確実に減少するため、以上のような状況を加味して対応していく。(事務局)
- ・ 幼稚園や保育園に関係なく、どの子どもにも教育を受ける権利は平等にあり、公立保育園だけが障がい児を受け入れたり、幼稚園だけが教育を受けられる印象は古くなりつつある。行政側も保育所で教育が必要であるという視点を持っていただき、特に民間保育所の部分では、「保育の質を維持しながら」

という包括的な考え方が必要である。(委員)

③ 審議結果

実績報告の内容について、了承を得られた。

(3) 基本目標3「地域における子育ての支援」について

① 審議内容

3つある施策の説明、実施状況、次年度に向けた改善点等を別紙資料に基づき事務局から説明した。

② 質疑応答

- ・ ファミサポについて、利用しにくいという声がある。援助会員を増やすことはできないか。また、タクシーを利用した送迎は考えられないか。(委員)
→ 昨年10月から援助会員の活動に対して報奨金を支給しているが、会員の増加に直結するとは考えていない。利用会員のニーズが多岐にわたる状況の中、援助会員とのマッチングが実現できていない現状もあるため、マッチング方法について研究し、取り組んでいきたい。(事務局)
- ・ 市内3ヶ所に地域版子育て支援センターを設置予定とのことだが、開設された東部子育て支援センター以外の残り二つはどこにできるのか。(委員)
→ 北部地区と南部地区に予定している。(事務局)
- ・ 0歳児を対象としたサロンは他市になく、良い取り組みであるため、引き続き実施していただきたい。(委員)
→ 0歳児でも1～5ヶ月と6～11ヶ月でサロンを分けているが、知り合いになった親同士をなるべく一緒に利用していただけるよう工夫していきたい。(事務局)

③ 審議結果

実績報告の内容について、了承を得られた。

(4) 基本目標4「母性並びに乳児及び幼児等の健康の確保及び増進」について

① 審議内容

2つある施策の説明、実施状況、次年度に向けた改善点等を別紙資料に基づき事務局から説明した。

② 質疑応答

- ・ 地域版の子育て支援センターと地域育児相談は担当課が違っただけで、役割としては一つの事業として実施できるのではないか。また、地域育児相談における「情報交換の場」は、実際にはどこで行うのか。(委員)
→ 地域育児相談では、専門職(保健師や栄養士)が相談に応じ、保健相談

センターで定期的に開催している。(年間 1,021 件の相談実績) 地域版子育て支援センターは、より地域に密着した相談窓口として、地域育児相談とは異なった役割を担っていると考えている。(事務局)

③ 審議結果

実績報告の内容について、了承を得られた。

(5) 基本目標 5 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進」について

① 審議内容

1 つある施策の説明、実施状況、次年度に向けた改善点等を別紙資料に基づき事務局から説明した。

② 質疑応答

- ・ 海老名市の男性職員の育児休暇取得率はどうなっているか。(委員)
→ 過去 3～4 名であったと思われる。実際に取得できている男性職員は非常に少ない状況である。(事務局)

③ 審議結果

実績報告の内容について、了承を得られた。

(6) 基本目標 6 「要保護児童への対応などきめ細やかな取組の増進」について

① 審議内容

3 つある施策の説明、実施状況、次年度に向けた改善点等を別紙資料に基づき事務局から説明した。

② 質疑応答

- ・ NP 講座お父さん版は海老名市内で実施できないか。(委員)
→ 所管課へ検討するよう伝える。(事務局)
- ・ 特別支援教育について、児童の多様性を認識するという側面でも非常に良い取り組みであるため、継続して実施されたい。(委員)
- ・ 特別支援教育について、各校 1 名の補助指導員は決して多い数ではないので、拡充していただきたい。
→ 拡充していく方向で検討するよう所管課へ伝える。(事務局)
- ・ わかば学園について、就園前相談しようにも非常に混んでいて、何ヶ月も順番待ちとなっている状況である。特に 1～3 月が混んでいて、市外へ相談している方もいるため、就園前に相談できる機会を増やしてほしい。(委員)
→ 保育園・幼稚園の関係者からも同様の相談は受けており、そのような現状になっていることは把握している。相談を受けられる人材の確保が急務

であり、今年度は例年に比べ体制を強化し、改善されるよう取り組んでいく。(事務局)

③ 審議結果

実績報告の内容について、了承を得られた。

4 閉 会

以 上